

あん せい
内間安理・俊子展 色を織り、記憶を紡ぐ
Ansei and Toshiko Uchima: Weaving Colors and Memories



左：内間安理《Forest Byobu (Shrub Oak-Autumn)》（部分）1979 年 多色木版、紙 個人蔵

右：内間俊子《鳩のいるアパートメント》1986 年 ミクストメディア 個人蔵

■ 展覧会概要

沖縄からアメリカへ渡った両親のもとに生まれた内間安理（1921-2000、米国籍）は、1940 年に来日し、早稲田大学で建築を学びました。第二次世界大戦後、恩地孝四郎らの創作版画に影響を受けた安理は、木版画での抽象表現を追究していきます。帰米後はニューヨークを拠点に制作を続け、1970 年代後半、浮世絵の版画技法にもとづく「色面織り」の技法を確立。色鮮やかな〈Forest Byobu 森の屏風〉シリーズで評価を高めました。

大連で育った内間俊子（1918-2000、旧姓・青原）は、1935 年に神戸へと移住し、小磯良平に絵画を学びました。1950 年代初頭に上京すると、瑛九が中心となり結成された前衛的なグループ「デモクラート美術家協会」に参加。この頃、久保貞次郎や瀧口修造を知り、抽象的な油彩画や木版画を制作するようになります。1959 年に夫の安理とともにアメリカへ渡り、後年は詩情あふれるコラージュやアッサンブラージュを制作しました。

本展は、版画やコラージュを中心に、二人の独自性ある豊かな創作世界を振り返るものです。俊

子については、初期から晩年までの軌跡を辿る初めての機会となります。戦後の激動の時代において、創作だけでなく、日米のアーティストや文化人のネットワーク形成にも尽力した両者の功績を再評価するとともに、イサム・ノグチや棟方志功など関連作家の作品と併せて紹介し、戦後美術の新たな一面に光をあてます。

■ 見どころ

1. 内間安理・俊子の全体像に迫る初の大規模な二人展

戦後に日米で活動し、木版画、コラージュとそれぞれ独自の創作世界を展開した内間安理と内間俊子の全体像に迫る本展。安理については、2014 年に沖縄県立博物館・美術館で開催された展覧会「色彩と風のシンフォニー／内間安理の世界」以来約 12 年ぶりの回顧展、俊子に関しては生前を通して初めての大規模な回顧展となります。代表作のみならず、初期の油彩画やドローイングといった貴重な作例、そして版木や書簡等の多彩な資料を交えながら、二人の活動の軌跡を辿ります。

2. 恩地孝四郎、棟方志功、イサム・ノグチら交流のあった作家の作品も紹介

本展では、安理・俊子と深い関わりがあった同時代の作家の作品も紹介します。安理に木版道の道を追究するきっかけをもたらした恩地孝四郎や棟方志功の版画作品のほか、家族ぐるみの交流があったイサム・ノグチの彫刻作品、デモクラート美術家協会時代に俊子が知り合った瑛九、泉茂らの作品など、二人が築いた美術家ネットワークの一端を窺い知れる内容です。

3. 豊富な資料を掲載した展覧会図録を刊行

出品作品の図版のほか、安理・俊子のご子息・内間安樹氏による回想録、戦後版画研究者の桑原規子氏による論考、略年譜や主要文献リストなどを収録した展覧会図録を刊行します。最新の研究成果に基づきながら構成し、一部英訳も収録した充実の一冊です。

■ 章構成 ※会場では展示の順番が異なります

第Ⅰ部 内間安理 [1921-2000]

第 1 章 版画との出会い ―日本時代 [1940-1959]

第 2 章 版による空間表現の探究 [1960-1976]

第 3 章 色を織る―〈Forest Byobu 森の屏風〉 [1977-1982]

第Ⅱ部 内間俊子 [1918-2000]

第 1 章 デモクラート美術家協会の時代 [1953-1956]

第 2 章 木版画の時代 [1956-1968]

第 3 章 記憶を紡ぐ―コラージュとアッサンブラージュ [1968-2000]

第Ⅲ部 関連作家―戦後日米の芸術家ネットワーク

■ 開催要項

展覧会名	内間安理・俊子展 色を織り、記憶を紡ぐ
会 期	2026 年 10 月 10 日（土）－2027 年 1 月 17 日（日） ※会期中、一部展示替えがあります。 （前期：10 月 10 日～11 月 29 日 後期：12 月 1 日～1 月 17 日）
休 館 日	月曜日（10 月 12 日、11 月 9 日、11 月 23 日、1 月 11 日は開館）、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
開館時間	10:00～17:30（展示室への入場は 17:00 まで）
観 覧 料	一般 1400 円（1120 円） 大高生 1120 円（900 円） ・（ ）内は 20 名以上の団体料金 ・中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い 1 名を含む）は無料です。 ・企画展観覧券（ぐるっとパスを除く）をお持ちの方は、あわせて MOMAS コレクション（1 階展示室）もご覧いただけます。
出品点数	約 200 点
主 催	埼玉県立近代美術館、東京新聞
協 力	JR 東日本、FM NACK5

■ 会場案内

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1 TEL: 048-824-0111 FAX: 048-824-0119

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

- ・ J R 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩 3 分（北浦和公園内）。J R 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約 35 分。
- ・ 当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「タイムズ埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き）。団体バスは事前にご相談ください。
- ・ お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。
- ・ 状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

■ 関連事業

○講演会

内間安理・俊子夫妻と親交があり、安理に関する評論も執筆している批評家・岡崎乾二郎氏に、安理の活動や作品を中心にお話しいただきます。

講師 | 岡崎乾二郎（造形作家、批評家）

日時 | 1 月 9 日（土）14 時 00 分～ [90 分程度]（開場は 13 時 30 分）

場所 | 2 階講堂

定員 | 80 人（申込不要、当日先着順）

参加費 | 無料

○レクチャー「内間俊子とその時代」

戦後にデモクラート美術家協会や女流版画会で活動した内間俊子。彼女の作家としての軌跡を振り返るとともに、同時代の女性作家たちの活動にも目を向け、登壇者それぞれの専門分野に応じたレクチャーを行います。

登壇者 | 桑原規子（本展学術協力者）、関 直子（当館特任館長）、佐藤あゆか（当館学芸員）

日時 | 12 月 20 日（日）15 時 00 分～16 時 30 分（開場は 14 時 30 分）

場所 | 2 階講堂

定員 | 80 人（申込不要、当日先着順）

参加費 | 無料

○ミュージアム・シアター「内間夫妻によせるピアノ演奏会」

内間安理と俊子は、音楽を愛した芸術家でもありました。そんな二人に想いを馳せるピアノ演奏会を開催します。二人が愛聴した楽曲や同時代を生きた作曲家による楽曲を通して、彼らが生きた時代、そして夫妻の面影を感じていただければ幸いです。

出演 | 山本香紫（ピアニスト）

日時 | 11 月 1 日（日）15 時 00 分～15 時 30 分

場所 | 地階センターホール

参加費 | 無料（ご鑑賞の座席には限りがあるため、立ち見となる可能性があります。）

曲目 | バダジェフスカ「乙女の祈り」、J・ケージ「おもちゃのピアノのための組曲」ほか

○ワークショップ「内間安理・俊子に学ぶ多版多色の木版画」

安理と俊子が用いた木版画の技法に学びながら、美術作家・関優花氏と多色木版画を制作します。

講師 | 関 優花（美術作家・版画家／版行動メンバー）

日時 | 11 月 29 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分

場所 | 3 階創作室

対象年齢 | 高校生以上

定員 | 15 人（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）

参加費 | 有り

※参加費を含むワークショップの詳細や申込方法は、9 月頃当館ウェブサイトでお知らせします。

○担当学芸員によるスライド・レクチャー

日時 | 11 月 23 日（月・祝）15 時 00 分～16 時 00 分（開場は 14 時 30 分）

場所 | 2 階講堂

定員 | 80 人（申込不要、当日先着順）

参加費 | 無料

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時 | ①10 月 18 日（日） ②12 月 13 日（日）

各日 15 時 00 分～ [1 時間程度]

※② 手話通訳付き（協働：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン）

場所 | 2 階企画展示室 * 企画展観覧料が必要です。

■ スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って本展覧会の見どころをご案内します（予約制）。

お問い合わせ、ご予約は教育・広報担当（TEL: 048-824-0110）まで。

■ 同時開催

MOMA S コレクション（1 階展示室）

■ 9 月 5 日（土）－11 月 29 日（日）

「セクション」「特集：堀浩哉：ゼロからの実践」

■ 12 月 5 日（土）－ 2027 年 2 月 28 日（日）

「モネ没後 100 年によせて一光を描く」「雪月風花を愛でる一大熊家コレクションから」

■ 図録

展覧会図録『内間安理・俊子展 色を織り、記憶を紡ぐ』（B5 判変形、税込 2,500 円）を当館ミュージアム・ショップで販売いたします。

■ プレスカンファレンス

2026 年 10 月 10 日（土）17 時 30 分～（受付開始：17 時 00 分）

埼玉県立近代美術館 2 階講堂

上記の日程で、報道関係者を対象としたプレスカンファレンスを開催いたします。

参加ご希望の方は、p2401115@pref.saitama.lg.jp（担当・佐伯）までメールでお申し込みください。その際、貴社名、お名前、参加人数、テレビカメラの有無をお知らせください。

■ お問い合わせ

展覧会担当：佐藤、西尾 ／ 広報・画像に関するお問い合わせ：佐伯

TEL: 048-824-0111（代表）／048-824-0110（学芸直通） FAX: 048-824-0118（学芸直通）

p2401115@pref.saitama.lg.jp（企画展担当）

■ 広報用画像

画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求は p2401115@pref.saitama.lg.jp（担当・佐伯）まで、メールでお願いいたします。

- ・ 画像を掲載する場合は、作品のキャプションおよびクレジットを明記してください。
- ・ 作品画像のトリミング、文字載せはご遠慮ください。
- ・ 掲載作品以外の画像をご希望の場合はお問い合わせください。

①



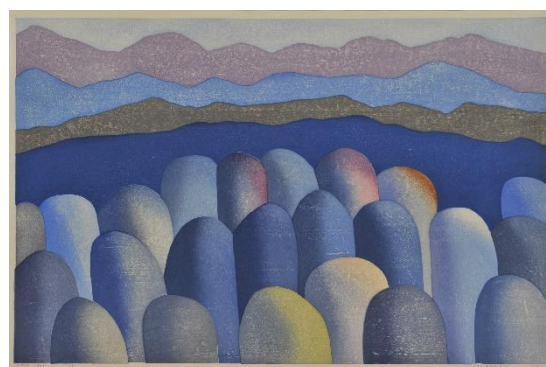
②



③



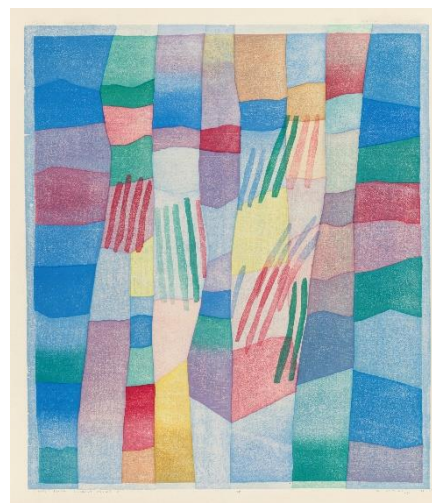
④



⑤



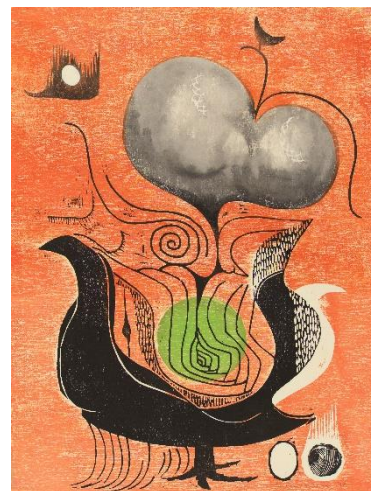
⑥



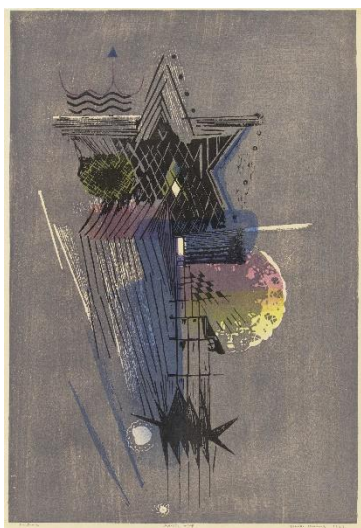
⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



画像キャプション

- ① 内間安理 《小さなアパート》 1955 年（摺り：1956 年） | 多色木版、マルチブロック、紙 | 個人蔵
- ② 内間安理 《相撲》 1957 年 | 多色木版、紙 | 個人蔵
- ③ 内間安理 《Ripening》 1966 年 | 多色木版、紙 | 個人蔵
- ④ 内間安理 《In Blue (Dai) 》 1975 年 | 多色木版、紙 | 個人蔵
- ⑤ 内間安理 《Forest Byobu (Shrub Oak-Autumn)》 1979 年 | 多色木版、紙 | 個人蔵
- ⑥ 内間安理 《Forest Byobu (Cobalt Weave) A》 1981 年 | 多色木版、紙 | 個人蔵
- ⑦ 内間俊子 《彩のある風景》 1954 年 | 油彩、カンヴァス | 和歌山県立近代美術館蔵
- ⑧ 内間俊子 《愛の讃歌》 1957 年（摺り：1958 年） | 多色木版、水彩、紙 | 個人蔵
- ⑨ 内間俊子 《ノクターン》 1967 年 | 多色木版、紙 | 個人蔵
- ⑩ 内間俊子 《Putnam Nail》 1979 年 | ミクストメディア | 個人蔵
- ⑪ 内間俊子 《彼女の名はデイジー》 1985 年 | コラージュ、パステル、紙 | 個人蔵
- ⑫ 内間俊子 《鳩のいるアパートメント》 1986 年 | ミクストメディア | 個人蔵